

令和4年度進行管理・評価シート
棚倉町 歴史的風致維持向上計画（令和2年6月24日認定）

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)	
1 棚倉町歴史的風致維持向上計画の推進体制	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)	
1 良好な景観を形成する施策との連携	2
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)	
1 棚倉城下町の歴史的建造物調査事業	3
2 歴史的風致形成建造物保存支援事業	4
3 史跡棚倉城跡保存活用計画・整備計画策定事業	5
4 赤館城跡周辺調査事業	6
5 棚倉城跡周辺道路整備事業	7
6 棚倉城下道路整備事業	8
7 馬場都々古別神社門前環境整備事業	9
8 伝統文化・技術の職人及び担い手育成事業	10
9 民俗芸能団体の活動支援事業	11
10 まつり助成事業	12
11 棚倉城跡観光拠点施設整備事業	13
12 ARアプリ整備事業	14
13 赤館公園整備事業	15
14 周遊性向上・案内板等整備事業	16
15 多言語周遊型観光パンフレット作成事業	17
16 歴史案内人育成事業	18
17 小中学生の認識向上推進事業	19
18 歴史・文化財学習講座事業	20
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)	
1 文化財調査・指定・保存管理に関する取り組み	21
2 文化財の周辺環境整備・防災・防犯に関する取り組み	22
3 文化財の普及啓発・民間団体への助成・支援・連携等に関する取り組み	23
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)	24
⑥その他(効果等)(様式1-6)	25

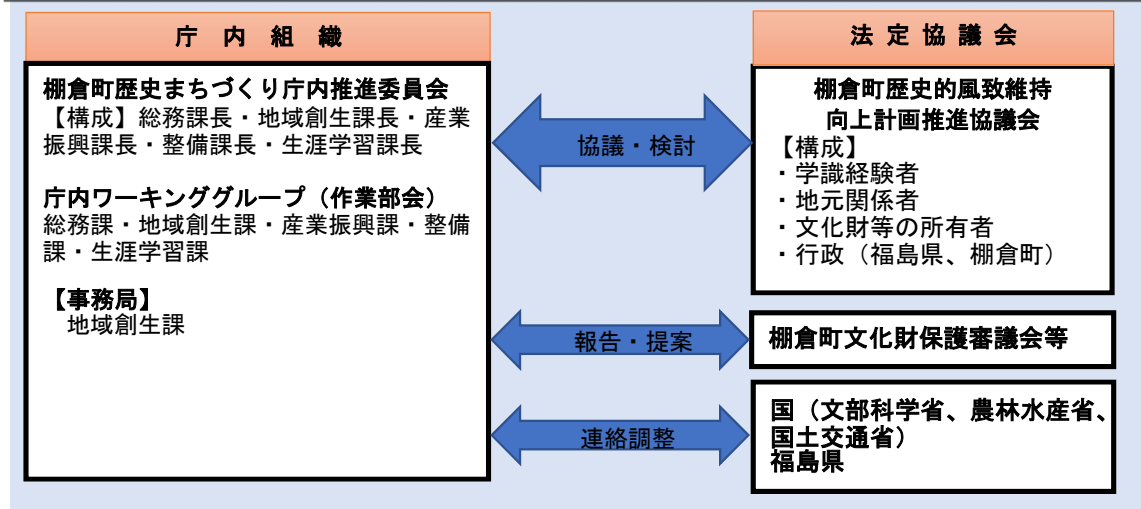
□法定協議会等におけるコメントシート(様式2)	26
-------------------------	----

評価軸①-1
組織体制

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
棚倉町歴史的風致維持向上計画の推進体制		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手	
計画に記載している内容	地域創生課を事務局とし、平成31年度に組織した「棚倉町歴史まちづくり庁内推進委員会」及び作業部会の「棚倉町歴史まちづくり庁内ワーキンググループ」を中心に関係各課が連携して、事業手法、計画の変更や調整等検討していく。また、歴史まちづくり法第11条に基づく「棚倉町歴史的風致維持向上計画推進協議会」において協議・検討を行い、計画の推進を図っていく。さらに、必要に応じ、棚倉町文化財保護審議会をはじめ、計画の推進に関係する協議会・審議会等とも連絡調整を行う。		
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で			
棚倉町歴史的風致維持向上計画推進協議会及び棚倉町歴史まちづくり庁内ワーキンググループを開催し、計画の推進や事業の進捗状況について協議を行った。 各事業の実施にあつては、関係課と連携し実施した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）	
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない		引き続き、庁内組織が連携して事業等について検討・実施していくとともに、歴史的風致維持向上計画推進協議会と協議・検討を行い計画を推進していく。	

状況を示す写真や資料等

棚倉町歴史的風致維持向上計画推進体制



○会議等の開催状況

- 令和4年5月9日 棚倉町歴史的風致維持向上計画推進協議会
 ・法定協議会会長及び副会長の選任について
 ・経過報告と今後の予定について
 ・令和3年度進捗評価について
- 令和4年7月13日 庁内ワーキンググループ
 ・計画事業の進捗について
- 令和5年3月28日 棚倉町歴史的風致維持向上計画推進協議会
 ・令和4年度進捗評価について
 ・計画の軽微な変更について
 ・計画の変更について

評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

項目	評価対象年度	令和4年度
		現在の状況
良好な景観を形成する施策との連携		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

計画に記載している内容

・都市計画法との連携
重点区域の全域が非線引きの都市計画区域に包含されており、用途地域と用途地域外の両方が存在している。さらに、用途地域では、住居系用途、商業系用途、工業系用途が混在している。

・景観法との連携
「福島県景観計画」による景観計画区域に町全域が指定されている。

・屋外広告物に関する規制との連携
重点区域内には、原則、屋外広告物を表示できない特別規制地域と市町村長の許可が必要になる普通規制地域が混在している。

・棚倉町農業振興地域整備計画との連携
重点区域内では都市計画の用途地域以外の区域が農業振興地域に指定されている。

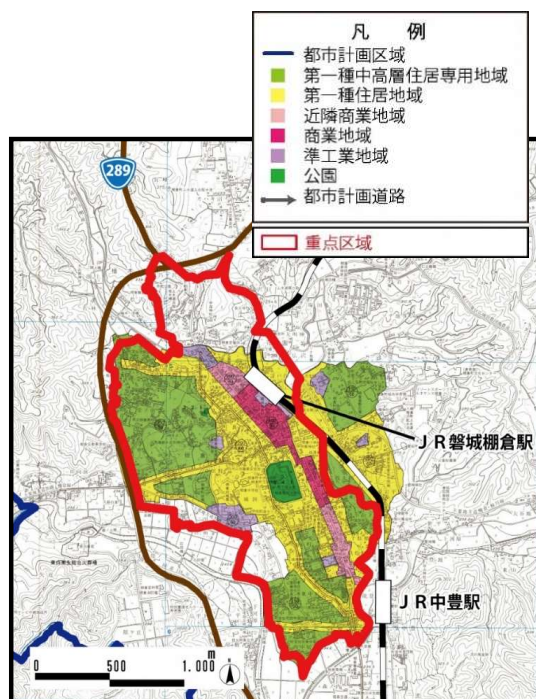
・自然公園に関する規制との連携
重点区域内の棚倉城跡の4.9haが、福島県立自然公園条例に基づく奥久慈県立自然公園(棚倉城跡地区)に指定されている。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

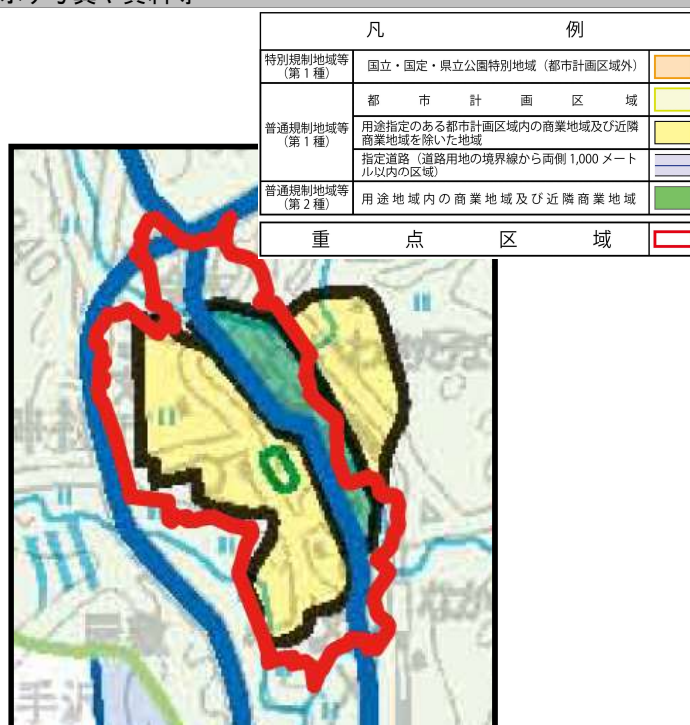
良好な景観の形成のため、各種施策と連携して運用した。
重点区域内の屋外広告物許可件数:6件

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	自然と歴史的風致が一体となった良好な景観が形成されるよう、引き続き各種施策と連携する。

状況を示す写真や資料等



重点区域と都市計画区域の区域図



重点区域と屋外広告物規制の区域図

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和4年度
		現在の状況	
棚倉城下町の歴史的建造物調査事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	令和2年度～令和5年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	重点区域内における歴史的建造物の保存・活用を推進するため、建造物の構造や建築年次等を調査し、歴史的風致形成建造物の候補となる建造物の抽出を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
同様の事業を実施している先進自治体から事例等をヒアリングし、事業の進め方の検討を行った。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	調査対象の選定や調査の体制等を決定し、令和5年度中に調査を実施し、歴史的風致形成建造物の候補を決定する。		
状況を示す写真や資料等			



重点区域内に残る歴史的建造物

評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
歴史的風致形成建造物保存支援事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	令和3年度～令和11年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	歴史的風致形成建造物の保全をするための、耐震化及び外観の修景、内装整備等の事業を支援し、歴史的風致形成建造物として保存する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
歴史的風致形成建造物の指定を行うための例規の検討、指定及び保存までの手順の確認を行った。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	建造物の所有者、文化財部局との連絡調整を密に行い、効果的な保存ができるよう、指定及び補助の体制を確立していく必要がある。		
状況を示す写真や資料等			



歴史的風致形成建造物の候補

評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度		令和4年度
項目		現在の状況
史跡棚倉城跡保存活用計画・整備計画策定事業		☒ 実施済 ☐ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	令和元年度～令和4年度	
支援事業名	史跡等保存活用計画等策定事業	
計画に記載している内容	国指定の史跡である棚倉城跡の調査を行い、現状を把握したうえで、策定委員会を組織し、棚倉城跡の適切な保存及び効果的な活用を行うための保存活用計画を策定する。また、保存活用計画策定後に棚倉城跡の整備の方針を固め、整備計画策定に取り組む。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
令和3年3月に「棚倉城跡保存活用計画」を策定した。棚倉城跡の具体的な保存整備・活用に向けて事業の進捗を図っていくため、令和3年度～令和4年度の2カ年で「棚倉城跡整備基本計画」の策定に取り組んだ。		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	整備基本計画の策定にあたっては、専門的な見地からの指導・助言を受けるため、棚倉城跡整備基本計画策定委員会を設置した。	
状況を示す写真や資料等		
国指定史跡 棚倉城跡 保存活用計画書  令和3年3月 棚倉町教育委員会 保存活用計画書 国指定史跡 棚倉城跡 整備基本計画書  令和5年3月 棚倉町教育委員会 整備基本計画書		

評価軸③-4

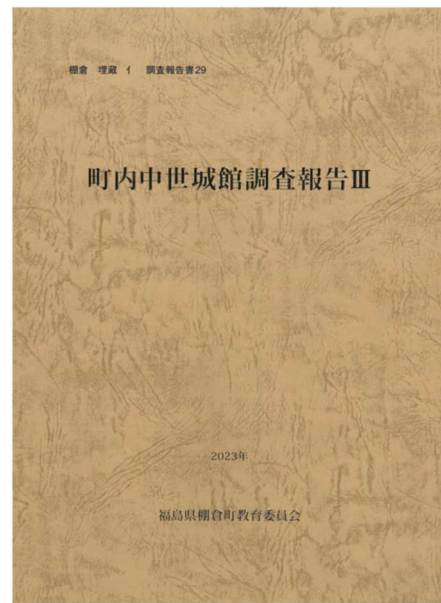
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
赤館城跡周辺調査事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成29年度～令和8年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	赤館城跡の適切な管理、効果的な活用を行うために、赤館城跡及びその周辺において測量、発掘等の調査を行い、城郭の現状把握をする。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
赤館城跡の主郭部周辺の測量図作成及び、曲輪の一部発掘調査を行った。令和8年度までに国史跡指定化を目指して、継続的に調査を行っていく。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	所有者、関係部局との連携を強化していく必要がある。また、調査成果について住民への説明会等を実施し、理解を深めていく。		

状況を示す写真や資料等



赤館城跡試掘調査の様子



町内中世城館調査報告書Ⅲ

評価軸③-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和4年度
現在の状況		
棚倉城跡周辺道路整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 令和3年度～令和11年度

支援事業名 町単独事業

計画に記載している内容 棚倉城跡周辺地区において、城跡の景観に調和した空間の整備を図るため、道路の美装化や道路構造物の改修等を実施する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

実施計画に基づき下記事業を実施した。

○棚倉城跡周辺道路整備調査設計業務委託

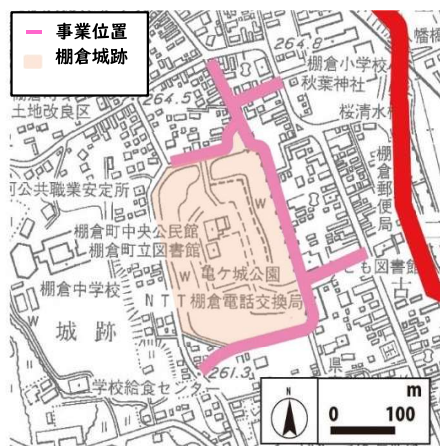
調査設計延長 L=0.90km

・現地踏査、道路予備設計

○棚倉城跡周辺道路街路灯整備工事 <実施中>

・街路灯更新…13台、街路灯新設…4台、街路灯電柱共架…5台、街路灯撤去…2基

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	設計成果品に基づき、周辺の環境と調和する道路美装化及び街路灯整備を行っている。



事業位置



現在の棚倉城跡周辺道路



現在の棚倉城跡周辺道路街路灯

評価軸③-6

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和4年度
		現在の状況	
棚倉城下道路整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	令和3年度～令和11年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	歴史的建造物が多く存在する棚倉城下町地区において、地域住民等の周遊性向上や歴史的建造物と調和した景観形成を目的に歩道の美装化を行う。また、歩道の整備にあわせて、歩道部にある構造物(街路灯・町堀)を改修する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
実施計画に基づき下記事業を実施した。 ○棚倉城下道路整備調査設計業務委託 調査設計延長 L=1.7km ・基準点測量、現地測量 A=0.026km ² 、道路予備設計 ○棚倉城下道路街路灯整備工事(新町工区) <実施中> 街路灯新設…29台、街路灯更新(電柱共架)…20台 ○棚倉城下道路街路灯整備工事(古町工区) <実施中> 街路灯新設…21台、街路灯更新(電柱共架)…39台			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	設計成果品に基づき、周辺の環境と調和する歩道の美装化、側溝整備を含めた道路整備及び街路灯整備を行っていく。		
状況を示す写真や資料等			



事業位置



現在の棚倉城下道路



現在の棚倉城下道路街路灯

評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
馬場都々古別神社門前環境整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	令和3年度～令和8年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	馬場都々古別神社門前地区の道路美装化や水路整備をはじめとした環境整備を行う。また、馬場都々古別神社周辺に地区住民等の街歩きの拠点となり、交流・憩いの場としても活用可能な施設の整備を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
令和3年度に策定した事業実施計画に基づき、庁内ワーキンググループ等で事業の検討を進めた。道路美装化整備及び街歩き拠点整備いずれも、令和3年度に定めた街なみ環境整備方針に基づき事業の精査を進めている。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		歴史的建造物・町並み・道路・水路・街歩き拠点等が調和するトータルデザインを検討しながら事業を進めていく。	

状況を示す写真や資料等



事業位置



現在の馬場都々古別神社門前地区



馬場都々古別神社本殿

評価軸③-8

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和4年度
		現在の状況	
伝統文化・技術の職人及び担い手育成事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	令和2年度～令和11年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	少子高齢化や人口減少により衰退しつつある伝統文化・技術が承継できるよう、後継者育成のための環境整備や、和菓子職人をはじめとした伝統文化・技術を引き継ぐ職人及び担い手などの育成活動に対して支援を行い、後継者を育成する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
町内小学生を対象とした職場体験において、明治時代創業の食品加工業者から製造工程等の話を聞き、参加児童の伝統技術に対する興味・関心の醸成が図られた。また、近津幼稚園において親子茶道教室が実施され、園児と保護者は茶道文化に触れたことで、伝統文化に対する興味・関心の醸成が図られた。 なお「近津小学校郷土史クラブ」については、御田植祭での巫女舞の披露をはじめとした活動が継続されており、伝統文化が継承されている。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	高齢により廃業してしまった和菓子職人がおり、このことから職人の後継者育成が急務となっている。町として具体性、実効性、即効性のある支援が必要である。		
状況を示す写真や資料等			



職場体験の様子



親子茶道教室の様子



御田植祭巫女舞の様子

評価軸③-9

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
民俗芸能団体の活動支援事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	令和2年度～令和11年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	重要無形民俗文化財に指定されている「都々古別神社の御田植」や「お枅明神の枅送り行事」をはじめとした民俗芸能の承継に取り組んでいる団体等に対し、必要に応じて学識経験者の指導、助言を得ながら、活動費の補助を行うとともに、支援や助言を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
以下の2件について支援等を行った。 ○都々古別神社の御田植 旧暦1月6日に開催される「都々古別神社の御田植」は、保存会と楽人会、神社の協力により実施された。 ○お枅明神の枅送り行事 後継者育成と伝統技術習得の活動を行っている保存会へ活動費助成を行った。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	民俗芸能の伝承に際しては後継者不足と技術の伝承が大きな課題であり、保存団体と協力して後継者の育成に取り組む。		
状況を示す写真や資料等			
			
御田植祭の様子			

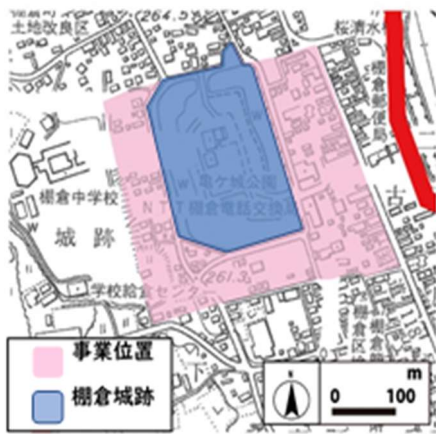
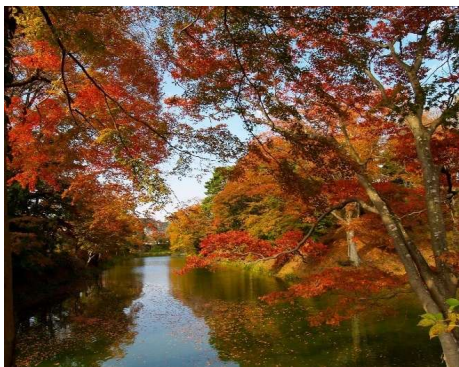
評価軸③-10

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和4年度
		現在の状況	
まつり助成事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	令和2年度～令和11年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	十万石棚倉城まつりや秋まつりなど、町内で行われているまつりの実行委員会等に対して、必要に応じて学識経験者の指導、助言を得ながら、事業費の補助等を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
「十万石棚倉城まつり」は、新型コロナウイルス感染症の影響等によるイベントの在り方を検討するなかで平成31年度の開催をもって終了となってしまった。(後に続くイベントとして、令和4年度は「たなぐらsakuraマルシェ」が開催されている。たなぐらsakuraマルシェは地元企業PRがコンセプトとなり、観桜行事としての一端はあるが、町の文化や歴史に触れられるイベントではなくなってしまった。) 「棚倉秋まつり」については感染対策を講じたうえで開催された。 棚倉町まつり事業補助金交付実績 ・十万石棚倉城まつり(平成31年をもって開催終了) → たなぐらsakuraマルシェ 1,280,000円 ・棚倉秋まつり 855,000円			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		武者行列、火縄銃砲術演武などを行っていた「十万石棚倉城まつり」が開催終了となってしまった。歴史あるまつりを絶やさぬよう適時適切に関係団体への助言、支援を行う必要がある。	
状況を示す写真や資料等			
			
棚倉秋まつり			

評価軸③-11

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

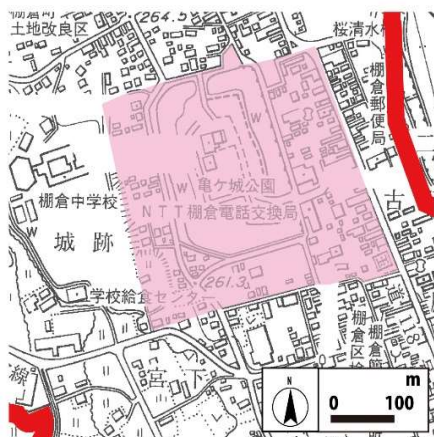
		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
棚倉城跡観光拠点施設整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	令和7年度～令和8年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	城下町の周遊の拠点となる観光案内施設がない状況にあるため、今後の棚倉城跡の遺跡保存に配慮しながら、来訪者に対し、文化財や歴史的建造物等の情報発信を行い、城下の街並みへの周遊性向上を図るため観光拠点施設を整備する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
令和3年度に策定した事業実施計画に基づき、庁内ワーキンググループ等で事業の検討を進めた。棚倉城跡は史跡に指定されていることから、文化財部局と連絡調整を図りながら、概略設計の検討をしている。また、都市再生整備計画の策定に着手した。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	棚倉城跡保存活用計画・整備計画と関連のある事業なので、文化財部局と密に連絡調整をしながら、事業位置・デザイン等を検討していく必要がある。庁内ワーキンググループや庁内推進委員会等も活用して意見聴取しながら事業を進めていく。		
状況を示す写真や資料等			
 事業位置			
 			
春や秋をはじめ観光客が多く訪れる棚倉城跡			

評価軸③-12

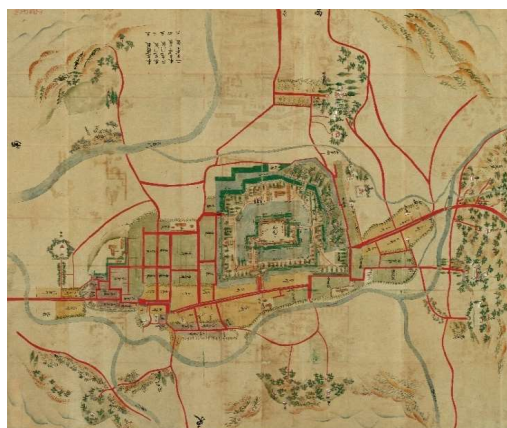
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
ARアプリ整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	令和3年度～令和11年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	スマートフォンやタブレット端末の画面に棚倉城の本丸や隅櫓などを再現するARアプリを開発するとともに、棚倉城跡周辺にARアプリへ誘導するQRコード付き案内板を整備する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
先進事例等の研究を行い、具体的な事業内容の検討を行った。また、概略設計の検討をするとともに都市再生整備計画の策定に着手した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		史料等が少なく、今後とも収集が必要である。文化財部局と密に連絡調整をしながら、アプリのデザイン等を検討していく。	

状況を示す写真や資料等



事業位置

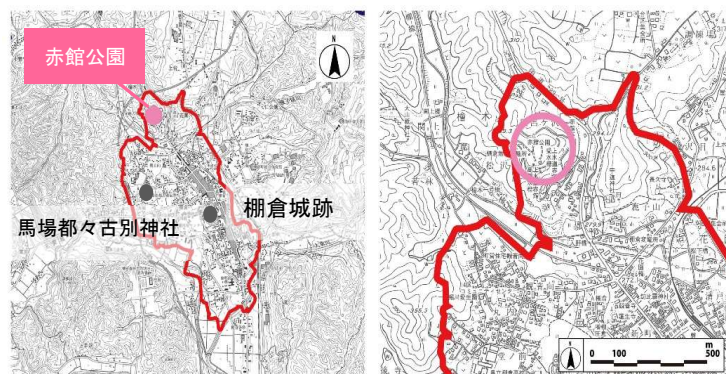


棚倉城跡周辺の古地図（日本古城絵図より）

評価軸③-13

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和4年度
		現在の状況	
赤館公園整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	令和5年度～令和11年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	赤館城跡内に位置し、観光地である赤館公園の来訪者の利便性向上と観光誘客促進のため、トイレの改修をはじめとした利便性向上施設の整備や本町の街並みを一望できる立地を生かした展望施設を整備する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
令和3年度に策定した事業実施計画に基づき、庁内ワーキンググループ等により、施設の概要、各年の事業量等を精査するとともに、都市再生整備計画の策定に着手した。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	整備予定箇所は埋蔵文化財包蔵地であるとともに、文化財部局による調査等が行われている場所であるため、文化財部局と密に連絡調整を行いながら具体的な工法やデザイン等を検討していく必要がある。		
状況を示す写真や資料等			



事業位置



赤館公園からの眺望



現在の赤館公園トイレ

評価軸③-14

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和4年度
周遊性向上・案内板等整備事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	令和3年度～令和8年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	地域住民等が町内の歴史的建造物や文化財等を楽しみながら効率的に周遊できるルートを検討・構築し、案内板等を設置する。また、町内の案内板等のデザインを統一し、周遊ルートに合わせた案内標識や歴史的建造物等の説明板を整備する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
令和3年度に策定した事業実施計画に基づき、庁内ワーキンググループ等により、各年の事業量等を精査するとともに、都市再生整備計画の策定に着手した。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	案内板の所管部署が複数あるため、案内板の調査をしたうえで、庁内ワーキンググループや庁内推進委員会などを活用して、各部署と密に連絡調整をしながら事業を進めていく。		
状況を示す写真や資料等			
 			

現在の説明板や案内板

評価軸③-15

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度		令和4年度
項目		現在の状況
多言語周遊型観光パンフレット作成事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	令和2年度～令和11年度	
支援事業名	町単独事業	
計画に記載している内容	歴史的風致や文化財の分布、歴史的建造物等を含めた町内周遊型のパンフレットを作成する。また、英語や中国語などの多言語バージョンも併せて作成する。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
全国京都会議に加盟している小京都と呼ばれる26市町村と共同し、小冊子を作成した。 また、町のグルメガイドを更新し、観光地等に配置した。		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	新型コロナウイルスの影響により減少した観光客を回復させるため、魅力ある観光パンフレットを作成する必要がある。 コロナ禍により外国人観光客の誘客が見込めなかったが、今後は多言語バージョンパンフレット作成に向けて検討する必要がある。	
状況を示す写真や資料等		
 小京都と京都ゆかりのまち  グルメガイド たなぐら		

評価軸③-16

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
歴史案内人育成事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成26年度～令和11年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	来訪する観光客に対し、本町の歴史や文化、自然等、本町の魅力について紹介することができる人材を育成するため、歴史案内人の講習や視察等を実施する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
令和4年度は棚倉町を訪れた4組、66人に対し、ガイドを実施した。 また、ガイド8人に対し講習を実施したが、視察研修は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により行うことができなかった。 なお、町民の歴史知識の向上、町への愛着心の醸成を図るために棚倉ふるさと検定を実施し、1級・2級合わせて延べ28人が受検した。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	歴史案内人の確保や若い世代の人材育成が課題となる。引き続き、棚倉ふるさと検定等により人材育成を図っていく。		

状況を示す写真や資料等

第9回 棚倉ふるさと検定

試験日 令和4年12月4日

申込受付期間 11月1日(土)～12月2日(金)

棚倉町ご当地検定「棚倉ふるさと検定」で棚倉町の知識を試してみませんか？受検には事前申し込みが必要です。以下をご確認のうえお申し込みください。

試験開始時間 2級 9:30 1級 11:00
(受付開始はそれぞれ30分前)

試験時間 60分(終了後途中退席可)

試験会場 棚倉町文化センター 第1・第2会議室

合格基準 2級:60点以上(棚倉町歴史虎ノ巻持ち込み可)
1級:80点以上(持ち込み不可)

申込方法 下記申込書を持参、FAXまたは電話での申込

申込先 棚倉町地域創生課 歴史観光係

TEL: 0247-33-2112 **FAX:** 0247-33-3715 **月曜～金曜日 (8:30～17:15)**

出題範囲 棚倉町の歴史を中心に、観光、雑学などに関する事項

試験形式 4肢択一式

受験資格 住所・学歴・年齢・性別・国籍不問

合格通知 後日郵便でのお知らせ

定員 各級20名程度

受験料 無料

棚倉町歴史虎ノ巻は、役場地域創生課で配布中です。合格者には、オリジナル認定証を交付します。

第9回 棚倉ふるさと検定受験申込書

ふりがな				電話番号 (自宅・携帯)	
名前				受験区分	1級 2級
住所				年齢	歳
性別	男	女			

棚倉ふるさと検定チラシ



棚倉ふるさと検定の様子

○棚倉ふるさと検定受検者数

1級・・・13人(1人合格)

2級・・・15人(15人合格)

○ガイド実績

9月21日 24人

(八槻都々古別神社)

11月13日 11人

(棚倉城跡)

11月16日 21人

(棚倉城跡、蓮家寺)

11月16日 10人

(八槻都々古別神社、山本不動尊)

○講習実績

6月27日 ふるさとガイド8人

テーマ「馬場都々古別神社を知る」

講師 ふるさとガイドの会 会長

評価軸③-17

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
小中学生の認識向上推進事業		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手	
事業期間	平成27年度～令和11年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	町内の小中学校と連携し、小中学生に本町の歴史や文化、自然などに関する知識を持ってもらうため、わかりやすいテキスト等の作成や学習会の開催、現地での見学・体験をすることで、子供たちの認識向上を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
・令和4年 5 月17日 棚倉小学校6年生77名、教員4名 赤館城跡の現地見学と講話 ・令和4年 7 月29日 町内小学校希望児童5名 子どもガイド育成講座「棚倉子ども探検隊」 ・令和4年11月28日 近津小学校4年生17名、教員2名 棚倉城跡の現地見学と霜月大祭についての講話			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない	町内の小・中学校すべての取り組みとなるよう学校側に働きかける必要がある。		

状況を示す写真や資料等



棚倉城跡の見学


 子どもガイド育成講座
 「棚倉子ども探検隊」
 町の土地や自然の魅力体験

評価軸③-18

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

令和4年度	
項目	現在の状況
歴史・文化財学習講座事業	☐実施済 ☒実施中 ☐未着手
事業期間	平成26年度～令和11年度
支援事業名	町単独事業
計画に記載している内容	本町の歴史や文化財に関する知識を深めるため、地域住民や地元団体等を対象に歴史や文化に関する講座を開催する。 また、地元の高校と連携しながら、高校生を対象とした出前講座やフィールドワークを実施する。
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で	
棚倉町立図書館を会場に、町の歴史を学ぶ講座「棚倉ふるさと講座」を2回開催した。 また、地元高校生を対象とした出張講座を実施し18人が参加した。棚倉城跡、蓮家寺を見学し、ガイドの説明を受けながら棚倉城郭の構造や蓮家寺の山門、鐘楼の歴史について学んだ。	
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない	町民の歴史知識の向上、町への愛着心の醸成を図るため、継続的に講座等を行っていく。
状況を示す写真や資料等	

令和4年度 棚倉ふるさと講座
棚倉町の歴史を学ぶ 全2回



第1回
11/11(金)
14:00～15:30
棚倉町の歴史を学ぶ
～幕末から明治初期の阿部家～
【講師】
中山義秀記念文学館
館長 植村 美洋 氏

第2回
12/1(木)
13:30～15:00
棚倉町の歴史を学ぶ
～棚倉城の歴史と構造～
【講師】
大田原市文化振興課
学芸員 山川 千博 氏

場 所 棚倉町立図書館

申込方法 お電話でお申込みください。
お名前、ご住所、電話番号、参加希望日をお申し出ください。

申込期限 各回、開催日前日の正午まで(定員に達し次第、受付終了となります。)

※新型コロナウイルス感染症防止のため、当日はマスクの着用や手指の消毒、検温等にご協力をお願いいたします。
また、新型コロナウイルスの影響により内容が変更となる場合がございます。

申込み・お問い合わせ先
棚倉町役場地域創生課 歴史観光係 TEL0247-33-2112

月曜～金曜日
(8:30～17:15)
休日:土・日・祝日

講座チラシ



講座の様子

- 受講者数
11月11日 21人
棚倉町の歴史を学ぶ①
～幕末から明治初期の阿部家～
- 12月1日 26人
棚倉町の歴史を学ぶ②
～棚倉城の歴史と構造～
- 合計 47人
- 高校生出張講座
11月24日 18人(棚倉城跡、蓮家寺)

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
文化財調査・指定・保存管理に関する取り組み		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	町内の指定等文化財については、関係法令等に基づいて、現況を確認しつつ適切な保存・管理に努めるとともに、無形の民俗文化財は活動への支援や助言等を行う。また、未指定文化財は調査を進め、歴史的価値が認められたものについては所有者や管理者などと協議し、歴史的風致形成建造物や町文化財に指定するなど保存・活用に努める。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
町内に残る赤館城跡と寺山館跡を中心として国史跡指定化を目指し、調査等を実施した。(令和4年度から令和8年度の5年間で計画)			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		職員不足による調査体制への懸念がある。調査体制について検討していく。	
状況を示す写真や資料等			
 赤館城跡  寺山城跡（寺山館跡）			

評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

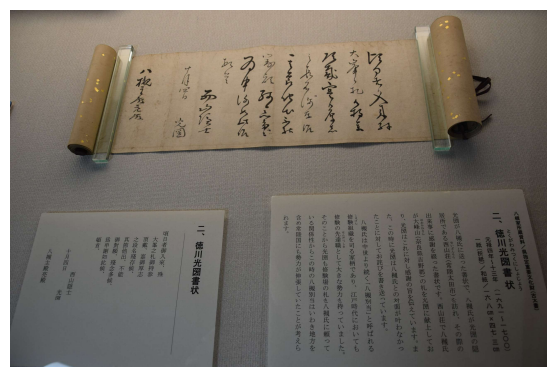
項目		評価対象年度	令和4年度
文化財の周辺環境整備・防災・防犯に関する取り組み			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	文化財とその周辺環境は、それぞれを別のものとして捉えるのではなく、文化財と一体的に、総合的に捉えることが重要であり、文化財の魅力や周辺景観を阻害している要素が見られる場合には、所有者や管理者などと協議のうえ改善を図る。また、文化財防火デーに合わせて、所有者、地域住民及び棚倉町消防団と連携した文化財周辺での消火訓練を行うとともに、消火設備、防火設備、防犯設備の推奨に努める。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
・周辺環境整備として、埋蔵文化財包蔵地「馬場古墳」とその周辺10.272㎡の下草刈等の森林整備を実施した。 ・文化財防火デーに合わせて実施した文化財防犯訓練では棚倉町消防団の協力を得て、火災防犯訓練等を行った。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	文化財の所有者・管理者・地域住民・関係機関と連携して引き続き取り組みを行っていく。		
状況を示す写真や資料等			
 馬場古墳周辺の森林整備  文化財防火デー火災防犯訓練			

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
文化財の普及啓発・民間団体への助成・支援・連携等に関する取り組み		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	広報誌のほか、文化財に関するリーフレット、公式ホームページやSNSでの文化財の情報発信に努める。また、現地説明会の開催や他市町村との情報の共有や意見交換などを通して、広域的な視点からの活動展開と新しい形の活動の充実を促す。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
秋の紅葉の時期に県指定重要文化財「八槻家住宅」にて文化財の企画展を実施した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		多くの展示会を開催するなど、歴史や文化に触れる機会を設ける必要がある。	

状況を示す写真や資料等



展示の様子

チラシ

評価軸⑤-1

効果・影響等に関する報道

報道等タイトル		年月日	掲載紙等
「サタふく あなたのまちからお届けします」 棚倉城跡などを生放送の中で中継した	令和4年10月29日	福島テレビ	
「町の魅力発信し誘客につなげ！城跡写した歴まちカード贈呈」 「歴まちカード5千枚 棚倉町に東北整備局贈る」 「歴まちカード棚倉町に贈る」	令和4年11月2日 令和4年11月2日 令和4年11月8日	夕刊たなぐら 東白日報 福島民友	
ゴジてれChu！「キャラバンin棚倉」 紅葉の山本不動尊から生放送	令和4年11月3日	福島中央テレビ	
東北の小京都 棚倉の紅葉を満喫	令和4年10月号	CJ Monmo	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
本町の歴史や魅力が各種メディアで取り上げられたことにより、本町の歴史等の普及啓発につながった。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☐ 計画の進捗に影響あり ☒ 計画の進捗に影響なし	町のホームページやSNSによる情報発信等を検討していく。		
状況を示す写真や資料等			

項目

観光振興に関する取り組み

計画に記載
している内容

来訪者に歴史的風致や町内に点在する歴史的建造物や文化財などを紹介するため、観光案内施設や来訪者用施設などの受け入れ環境整備を進めることで、来訪者への情報発信を図る。

また、案内標識や観光案内板などはデザインを統一し、外国人観光客にも対応した多言語の標識や説明板などを整備するとともに、町内周遊型のパンフレットを作成・活用することで、来訪者が歴史的風致や文化財、歴史的建造物などについて理解し楽しみながら効率的に周遊できるルートを構築する。

さらに、来訪者に本町の魅力をスムーズに理解していただくため、本町の歴史や文化、自然などについて紹介することができる人材を育成し、より質の高いおもてなしができる歴史案内人の確保に努める。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

令和3年度に配布した御城印について、販売の要望が多くあったため販売を開始した。観光協会、ルネサンス棚倉、山本不動産の3ヶ所で販売している。

また、町内5か所(磐城棚倉駅、馬場都々古別神社、ルネサンス棚倉、八槻都々古別神社、山本不動産)に設置している大型観光案内板は、表示内容を現状に合わせるための修繕を行い、来訪者へ分かりやすいものにした。

進捗状況 ※計画年次との対応

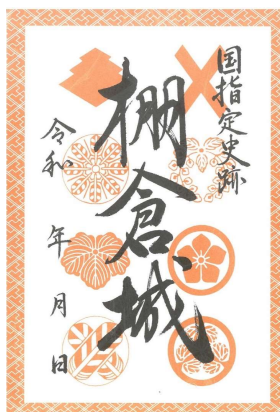
実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

□計画の進捗に影響あり

■計画の進捗に影響なし

新型コロナウイルス感染症の影響により観光入込客数が減少しているため、歴史的風致を生かした観光振興等により、観光入込客数の増加を図っていく

状況を示す写真や資料等



棚倉城の御城印

○御城印の販売状況

1枚：200円

(令和4年度実績)

・観光協会	135枚
・ルネサンス棚倉	203枚
・山本不動産	541枚
合計	879枚



修繕工事後の大型観光案内板

法定協議会等におけるコメント

(様式2)

評価対象年度	令和4年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 令和4年度第2回棚倉町歴史的風致維持向上計画推進協議会 会議等の開催日時: 令和5年3月28日(火) 14:30~15:30 (コメントの概要) 《評価軸②-1:良好な景観を形成する施策との連携》 (1)歴史的風致維持向上を図るのであれば、県にお任せではなく、町として景観条例を制定したほうが良いと思われる。歴まち第2期計画には景観計画条例の制定が必要と思われるため、今から少しずつ勉強を始めてはどうか。 《評価軸③-5:棚倉城跡周辺道路整備事業、③-6:棚倉城下道路整備事業、③-7:馬場都々古別神社門前環境整備事業》 (2)道路法では6m以上の車道幅員がある道路は、中央線、外側線を設置することが規定されている。中央線があるということは、道路幅員が広いということであり、つまり、安心してスピードが出せる道路ということになる。できるだけ車線幅員を狭くして、対向車同士が徐行し、スピードが出せない道路にしたいと、歩行者にとっても優しい道となる。人・歩行者中心で使える道空間を描き、近隣住民への配慮しながら、是非、歩行者中心の道にしていきたい。 (3)これら事業は、これから詳細設計の入札をすると思うが、歴史まちづくりのデザインに長けている設計業者が落札するとは限らない。これらの事業は町の「顔」になる空間の整備だと思うので、単なる高質化、美装化ではなく、歩行者中心の空間となるよう、有識者に意見を求めている。 《③-14:周遊性向上・案内板等整備事業》 (4)案内板整備の事業実施主体は1つの課か、複数の課か。過去に複数の部局で実施したことによりデザインが統一されていない案内板となってしまった自治体を見たことがある。中身については齟齬が生じないように配慮願いたい。 《④-2:文化財の周辺環境整備・防災・防犯に関する取り組み》 (5)これらの取り組みはとても良い取り組みだと思う。文化財は単体でスポットを当てられがちだが、周りの環境と一体となって、価値が生まれる。ぜひ継続してほしい。 (今後の対応方針) (1)歴まち第2期計画移行時には景観計画条例の制定が必要であると認識はしており、関係部局が連携しながら、検討を進めていきたい。 (2)事業実施担当部局と連携を図り、検討を進めたい。 (3)事業実施担当部局と連携を図り、詳細設計着手中にデザイン等に関して学識経験者に助言をいただけるような体制の構築を進める。 (4)1つの課で実施する予定としている。事業を進める際は、統一されたデザインになるよう配慮する。 (5)引き続き取り組んでいく。	